

多数派と少数派

少数派への配慮

社会には多数派（マジョリティ）と少数派（マイノリティ）がいます。少数派とは、

- ・LGBT、性的少数者
- ・障がい者
- ・在日外国人
- ・エイズやハンセン病などの感染病患者
- ・高齢者、幼児
- ・ホームレス
- ・被差別部落出身者

などがありますが、しばしばこれらの人々の差別問題が取り上げられています。私たちの多くは多数派で、少数派の苦悩を感じることに難しいからです。多数派が正しい情報を知り、正しい判断ができるなら

少数派と向き合う

ば問題ありません。しかし実際は、間違った情報や雰囲気によって判断を誤り、少数派が理不尽な仕打ちを受けることが多くあります。また、多数派が利益を優先し、偏見や差別、人権侵害に苦しむ少数派を抑圧してしまうこともあります。

人は誰しも、ときとして少数派になる可能性があります。少数派の人権を守るため、人の痛みを自分のものとして感じ、自分の考え・行動が人に何をもたらすのかを想像する感性（人権感覚）を身につけることが大切です。また「雰囲気によって誤った判断をする」「利益だけを優先させてしまう」といった、自分の弱いところを自覚し、普段から自分の感じ方について考えてみましょう。

多数派の中には、「自分は偏見がない」「差別をしたことがない」からと、少数派の苦悩について深く考えない人や、「差別を見過ぎしても生活はできる」と考える人がいます。

苦しんでいる少数派を知らないことにし、みんな何も知らない、何も知らされない状況をみれば、差別・偏見は一見なくなつたかのように見えます。しかしそれは多数派にそう見えていだけで、本当は差別・偏見はなくなつておらず、悩んでいる少数派は黙りこむしかありません。少数派の苦悩を「見て見ぬふり」を

苦しんでいる少数派をい



することは、結果として少数派をより苦しめることになるのです。

少数派と向き合ひましょう。少数派が抱える苦しみについて周囲と語り合ひ、学び合ひながら、正しく理解することが大切です。

みんなが楽しく、豊かに暮らす社会へ

これまでの日常生活では、多数派が優先されることが多くありました。しかし今後は、少数派にも配慮された、みんなが楽しく豊かに暮らせるような社会に変えていくことが求められています。

子どもたちはそれぞれの学校で、誰にとっても優しい社会をつくる意欲を高めるため、人権教育を受けています。

一方大人は、人権教育を受ける機会はあまりありません。しかし大人の人権感覚は、次世代を担う子どもたちへ伝わります。今一度、



自分の人生や人権感覚を見つめ直してみたいかがでしょうか。

一人ひとりが自分にできること、自分が変われるところを見つけていきましょう。



☎ 教育委員会事務局

人権・同和教育係

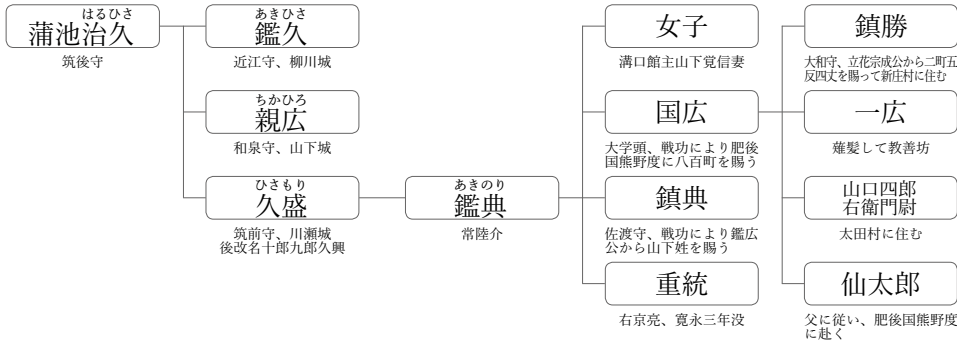
0943・32・0093

(内線313)

広川町に残る城と館跡

川瀬城と矢賀部氏 その2

矢賀部氏の系譜



大聖寺は矢賀部氏が菩提所とした寺です。境内の一角にある墓地には、初代川瀬城主矢賀部久盛夫婦と、嫡子鑑典の逆修墓塔（生前に建立された墓塔）が並んで残っています。

○矢賀部久盛の墓塔

山下二段一丈為両尊
矢賀部筑前守藤原久盛
億劫不朽
積迦如来坐像 雪林覚盛居士
功徳甚深
于時 大永八戊子秋時正日

○久盛の妻の墓塔

観音妙智力 能求世間苦
現世安穩
観音菩薩坐像 月窓妙盛大姉
後生善処
大永第八戊子九月彼岸日敬誌

○鑑典の墓塔

奉漸讀大乘妙典一千一百部

當庄役矢賀部常陸介鑑典
預修 賀屋覚淳居士
天文十六丁未南呂彼岸日

初代川瀬城主矢賀部久盛は、夫婦の墓塔を建立した翌年（享祿2・1529）、上妻郡太原村内の山下3丈、山別8丈の合計2反1丈を、久盛（久興）一代限りで寄進しています。（「筑後将士軍談」）

「横溝六郎遺文集」をはじめ、これまで久盛の墓塔に彫刻された尊像は阿弥陀如来坐像と認識されてきました。しかしここでは、積迦如来坐像としています。「稲員家文書」の中に、2反1丈の土地寄進に関する重要な文書を見つけたためです（詳細は次号で述べます）。

また、系譜には「十郎九郎久興」という名前が出てきます。『下広川郷土史』（井上農夫著）では矢賀部鑑典の前名とされていますが、ここでは矢賀部久盛が改めた名前であるとされています。「横溝六郎遺文集」や土地寄進地面積、

墓塔に彫られたもの、資料に出る人名から判断したものです。（続く）

（広川町郷土史研究会）

（補注）

丈…中世の面積の単位。5丈＝1反。

熊野度…肥後の国とあるが、場所の特定はできていない。

逆修…生前に弔いの供養を済ませること。預修ともいう。

時正日…彼岸の日のこと。南呂…陰暦八月の異称。



大聖寺墓地に残る矢賀部久盛（右）と妻（左）の逆修墓塔

広川町古墳資料館だより

優美で繊細な彫刻が施された石人山古墳の直弧文。この文様の解明に、日本で唯一挑戦してきたのが西平孝史氏（彫刻家）です。広川町は平成25年から、高木恭二氏（考古学者）とともに、西平氏の研究を支援してきました。

今年、今までの成果をもとに入門書「はじめての直弧文」（写真）が作られました。難解とされる直弧文について、図形分解を通してわかりやすく解説されています。

この入門書を使った今年度のワークショップは、来年2月まで開催する予定です。興味のある人は教育委員会事務局（☎0943・32・0093）へご連絡ください。

